

IV 管理運営の基本的な考え方

管理運営方針

「地産地消」によって文化を循環し、拡げる

整備方針にも掲げたとおり、市民、行政、教育機関、運営者などが京田辺市のこれまでの文化を「みんなで創る」=共創空間づくりを進め、ここで生まれた文化を誰でも楽しめる、学べるようにします。

市民同士の活動を知り、刺激を受けて新たに活動を始める人が生まれたり、ここで学んだ人が指導者として後進を育てたりするなど、京田辺の文化が循環しながら世代を超えて持続し、より多くの人に拡げていくことを目指して運営に取り組みます。

文化の「地産地消」の推進に向けた基本的な考え方

- ▶地域に文化を広めようと活動する人々が多くいる特性を生かし、これらの人々が事業の企画や出演などに参画する京田辺ならではの自主事業を展開します。
- ▶貸館事業においても、これらの人々が主体的に公演や指導を行うことにより、文化や芸術が広く普及啓発されることを目指します。
- ▶図書館を複合していること、市内で地学連携の取り組みが行われていることといった知的資源も活かし、文化芸術から生涯学習まで、幅広く「地産地消」される環境を育みます。

運営主体

- ▶現時点において、一部の業務については民間事業者が担うことを想定しており、複合化する機能同士が連携した運営について、民間事業者のノウハウを活かして効率的かつ効果的な運営ができる体制を検討します。
- ▶図書館業務については分担範囲を検討中であり、これまで以上に図書館の役割を果たし、様々な市民ニーズに応える運営が可能となるよう引き続き検討します。

V 事業化に向けて

事業手法

- ▶現状は「DBO方式」「PFI-BTO方式（資金調達を市が行うケースを含む）」「E0I方式（運営者を先行募集して事業者募集の仕様を作成を行う）」及びE0I方式を工夫した手法（運営者を先行募集し、設計等に並行して参画させる）のいずれかの手法が適していると考えます。
- ▶今後、民間活力導入可能性調査を実施し、広く民間事業者の意見を募って詳細に調査、検討を行い、最終的な事業手法や民間にゆだねる業務範囲等を定めます。

整備スケジュール

現時点で想定される今後の整備スケジュールの概略は次のとおりです。

R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度
導入可能性調査	事業者選定準備	事業者選定		設計		建築工事		開館予定

概算事業費

- ▶類似施設の建設費実績及び近年の工事費高騰の状況を踏まえ、令和7年末時点での建築工事費（税込）は約70億円（外構・備品等の整備・調達費及び設計・工事監理費等を除く）を想定しています。
- ▶その他、施設整備の財源確保については、活用の可能性のある国庫補助金・交付金事業を十分に把握し、本市の財政支出の低減を図るため、有利な財源の確保に努めています。

京田辺市複合型公共施設整備基本計画(案) 概要版 令和8年 月 京田辺市

I 計画条件の整理

事業の背景・目的

- 京田辺市では市民がさまざまな文化芸術、生涯学習活動に取り組んでいる一方で、文化ホールがないこと、中央公民館の老朽化と耐震性能不足、中央図書館の狭隘化や使い勝手上の課題等、活動の「場」の提供については多くの課題を抱えています。
- そこで、芸術と生涯学習の場を一体的に提供する「複合型公共施設」を整備することとなりました。

基本構想での検討

令和6(2024)年6月に策定した基本構想では右図のコンセプトを定めました。

コンセプト:みんなで創る“つながり”“ひろがる”文化の広場

【整備の方向性】

- ▶ 誰でも文化を楽しむことができる「市民」と「文化」をつなぐ施設
- ▶ 日常的に文化を楽しむことができる「暮らし」と「文化」をつなぐ施設
- ▶ 文化でまちを彩る「文化」が「まちづくり」へとひろがる施設

建設地の状況

複合型公共施設は、JR京田辺駅北側で事業中の「田辺北土地区画整理事業区域」の一部で整備します。

位置図及び周辺図



敷地図



敷地概要

敷地面積	16,591.72m ²
区域区分	市街化区域
用途地域	近隣商業地域
建蔽率・容積率	80%・200%
防火地域	準防火地域
地区計画	田辺北地区地区計画(公共文化ゾーン)
建物最高高さ	31m
交通	JR京田辺駅より徒歩約10分 近鉄新田辺駅より徒歩約15分

II 新たな施設に求められるもの

複合型公共施設に求められるもの(現状及びご意見のまとめ)

市民の文化活動・生涯学習活動の状況やさまざまな市民ニーズについての意見聴取を行った結果や、近年の公共施設整備におけるニーズ・潮流をふまえ、本施設に求められるものを以下のとおりまとめました。

目指す運営

- 自ら文化を創り、楽しむ、文化の「地産地消」の場
- ひとりでも、グループでも活動でき、過ごせる場
- 多分野の共創を通じて交流が生まれる場

- 創造的な新しい取り組みを柔軟に受け入れる場
- 創造的な取り組みをまちに拡げ、つないでいく場

必要な施設

- “ひろば”
 - ・居心地がよい空間
 - ・カフェなどの軽飲食機能
 - ・こどもたちの遊び場となる空間や仕掛け
- ホール
 - ・良質なコンサート、公演等を楽しめる空間
 - ・さまざまな演目に対応できる舞台サイズ
 - ・市民が行う公演等に適した客席数
 - ・音響性能を確保したうえで可動席とし多用途化
- ギャラリー
 - ・展示作業がしやすい現状規模のギャラリー
 - ・大規模な美術展はホールを平土間にして活用
 - ・共用部の壁面を活かした展示
- 日常活動のための部屋
 - ・個人の利用に適した規模の防音室
 - ・公民館の教室事業が続けられる仕様の諸室

○図書館

- ・質の高い図書サービスが受けられる施設
- ・どの世代にとっても居心地がよい空間
- ・仕事や自習ができるスペース
- ・静かに過ごすスペース、会話ができるスペース
- ・紙の本もきちんと残すことを考えた蔵書数、書架

○子育て支援

- ・親子で過ごせる、遊べるスペース
- ・こどもがひとりでも安心して過ごせる空間、サービス
- ・一時預かり、相談対応機能

○その他

- ・帰宅困難者に対応できる備蓄品等保管スペース
- ・京田辺のお茶を楽しめる機能や事業
- ・市民参画のための施設(ボランティア室等)
- ・駅からのアクセス、市内へのアクセス向上

III 施設計画

施設整備方針

文化を「地産地消」する共創空間をつくる

京田辺には、自らの楽しみとして文化活動、生涯学習活動に取り組むだけでなく、文化が市民の身近な存在になることを目指して活動している人々がいます。また、まちに根付く歴史的なものばかりでなく新しいものを柔軟に受け入れることができる人々が多く暮らすまちでもあります。

新たな施設の整備を機に、市民がつながり、ひろがって「京田辺発の文化」を創るとともに、それを楽しみ、学ぶのも市民であるという、文化の「地産地消」の場となるよう、市民、行政、教育機関、運営者などが京田辺のこれから文化を「みんなで創る」=共創空間づくりを目指します。

基本的な機能

日々の生活と文化・生涯学習をつなぎ、まちに拡げる“ひろば”

- ▶誰でも訪れることができ、楽しい活動・体験やさまざまな人と会える場として“ひろば”を設けます。“ひろば”を介して多くの出会いや新たな活動が生まれ、まちへと拡がる施設をめざします。

文化をつくり、発信する3つのメイン機能

- ▶「みんなで創る“つながり”“ひろがる”」を実現する主幹機能として、「文化ホール機能」「図書館機能」「創造・学習機能(公民館を引き継ぐ機能)」の3つのメイン機能を位置付けます。
- ▶3つの機能が混ざり合い、ニーズに合わせて横断的に利用できる施設配置や運営を行うことで、施設全体で文化をつくり、発信します。また諸室は「タイムシェア」や「重ね使い」により多用途化し、効率的な施設運営を実現します。

生活と文化を近づけ、文化に触れやすくなるための3つの併設機能

- ▶より多くの市民が来館し、文化に触れる機会が増えることを目指し、「子ども支援機能」、「市民交流促進機能」、「行政相談支援」の3つの併設機能をもたせます。メイン機能で設けられる会議室等の諸室を活用して事業に取り組みます。

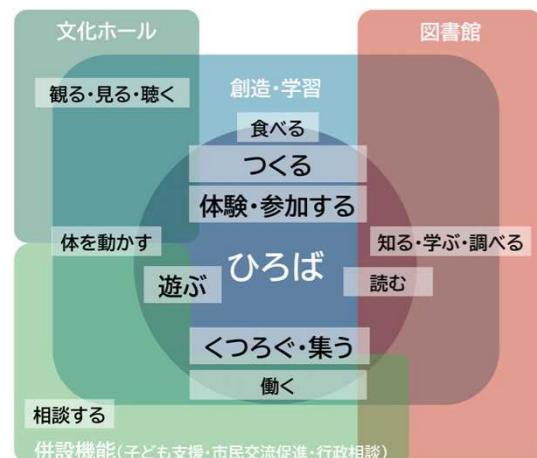
誰でも安心、安全に過ごせるための基盤

- ▶障がいの有無、世代などに関係なく訪れることができ、快適に過ごせるバリアのない施設や運営を目指します。また災害等が発生したときには、帰宅まで安全に過ごせる環境を目指します。

想定されるアクティビティ(活動)

「文化ホール機能」「図書館機能」「公民館機能」や併設機能が、同じ施設内にそれぞれ存在するのではなく、想定されるアクティビティ(活動)に合わせて混ざり合い、横断的に利用されることを想定しています。

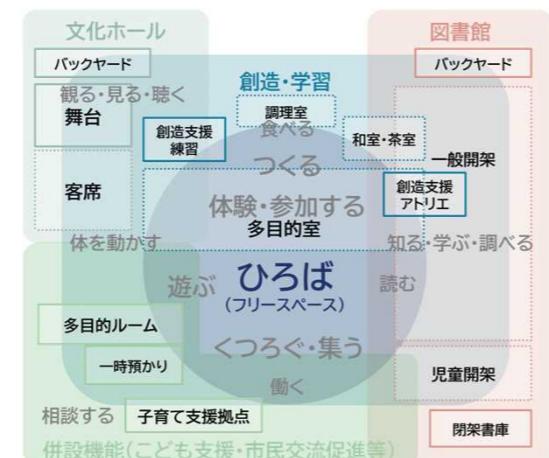
メイン機能・併設機能とアクティビティ



導入機能とアクティビティ

市民意見聴取等から得られた市民の行動(アクティビティ)と本施設の機能(諸室)との関係性を下図にてあらわしています。

諸室とアクティビティの関係



導入機能の計画

- | | |
|----------------|--|
| 文化ホール機能 | ▶ 文化活動の発表において満席感があり、良質な鑑賞環境が得られる中規模ホールとします。
▶ 規模の大きい展覧会にも対応できるよう、平土間に可変できるホールとします。 |
| 創造・学習機能 | ▶ 中央公民館の機能を引継ぎ、個人利用や教室利用など、より多様な活動ができる機能とします。
▶ 各部屋に設ける設備は異なっても、「創造支援室」などの統一した名称とし、各種の会議をはじめ多用途に使えるようにします。 |
| 図書館機能 | ▶ 収容冊数28万冊、うち4割を開架とします。
▶ 静かに本を読む人、グループで話しながら利用する人など、それぞれの目的、過ごし方に応じた空間を適切に設けます。
▶ 閲覧、学習については、共用部や空き室なども活用します。 |
| ひろば機能 | ▶ 居場所としての役割に加え、各機能をつなぎ、異なる活動に自然と触れて興味を抱く場、人と出会い、交流する場として位置づけます。
▶ 屋外広場、公園等に開かれ、一体感を感じさせる作りとします。 |
| 併設機能 | ▶ 創造・学習機能の諸室によって事業やサービスを提供することを前提とし、遊び場、相談室等、特別な利用特性のある部屋のみ設けます。 |
| 管理機能 | ▶ 快適に働くことができ、機能的な執務環境、バックヤードとします。 |

各機能の規模

項目	想定面積	主な諸室およびその仕様
文化ホール機能	約1,700m ²	客席:400席程度、平土間空間としても利用可能 舞台:プロセニアム形式、舞台開口10間(18m)、主舞台6間(10.8m) 樂屋、スタッフ控室、ホワイエ、倉庫 等
創造・学習機能	約700m ²	多目的室、会議室、練習室、和室・茶室、調理室、アトリエ 等
図書館機能	約1,900m ²	一般開架:72,000冊程度、児童書架:40,000冊程度 閉架書架:168,000冊程度
ひろば機能	約1,800m ²	エントランスロビー、共用トイレ、授乳室、階段廊下 等
併設機能	約400m ²	子ども支援、市民交流促進機能及び行政相談機能 等
管理機能	約1,200m ²	事務室及び関係諸室
合計	約7,700m ²	

配置・動線計画

配置・動線イメージ

- 本施設は、駅に近い南側を歩行者動線として想定しています。歩行者の安全確保のため、駐車場に向かう一般車両や搬入動線は北側からの出入りとします。
- 歩行者、駐車場利用者それぞれに利便のいい場所に入り口を設け、さらに隣接する公園に開かれた配置とすることで、公園と本施設の入り口を容易にします。
- 敷地及び公園の北側には歩道がないことから、遊歩道を設置し回遊性を確保します。

